

7 中間期におけるチンゲンサイの品種比較試験

試験の目的

市内のチンゲンサイ栽培において、低温期と盛夏期の間の中間期に使われている基幹品種について、近年黒腐病の発生が増えその被害に苦慮していることから、現行基幹品種の代替となり得る品種を模索する品種比較試験を実施しました。

関係先

旭川青果物生産出荷協議会 チンゲン菜部会（以下「部会」と表記）

試験作期等

	作期 1	作期 2	作期 3
は種	3月29日	6月8日	8月6日
定植	4月18日	6月27日	8月21日
栽植密度等	条間 15cm×株間 15cm=4,444株/a, 雨よけハウス栽培, 2反復 有孔マルチ使用 [(作期1) 銀ネズ, (作期2, 3) 黒色]		

供試品種（3作期共通）

No.	名称	販売元	CR	No.	名称	販売元	CR
標準	CR うらら	寺岡種苗園	有	5	TSX-317	トキタ種苗	無
1	N-002	カネコ種苗	有	6	緑龍 (リュウロン)	日本農林社	有
2	SC8-119	サカタのタネ	無	7	粹酬味 (イゴミ)	武蔵野種苗園	無
3	艶帝 (エンテイ)	サカタのタネ	有	8	冬大賞 (フタイショウ)	武蔵野種苗園	無
4	STT-115	寺岡種苗園	無				

※CR（根こぶ病抵抗性）の有無は、販売元の表記による。

調査方法

(1) 調査項目

- ア 生育調査 : 発芽率, 定植時苗質, 生育日数, 生育揃いの良否
- イ 収量調査 : 調製前総収量, 規格別調製後収量, 規格別株数割合
- ウ 品質・特性調査 : 障害の発生程度, 形質等の特性, L規格株調査
- エ 収穫後品質調査 : 収穫及び出荷後の黄変等の品質状態を想定した調査

(2) 評価

部会の基幹品種の一つである「CR うらら」を標準品種とし、標準品種と対比して各品種の特性を明らかにしました。

当地の中間期栽培に適合する特性を有する品種を有望品種として評価する際には、特に、「病害の発生がないこと」、「3作期を通じて生育の揃いが良いこと」、「収穫後の品質劣化が少ないこと」等の特性を重視して評価しました。

試験結果

3作期の試験結果を総合的に評価した結果、現行基幹品種「CR うらら」に代わり、当地の中間期栽培において有望と考えられる品種として、次の2品種を御紹介します。

有望品種

※写真配列 [左：収穫調査株，中央：株を分解した状態，右：3週間冷蔵保管後の状態]

(1) SC8-119



ア 長所

- ・葉は平滑で、ほとんどカップリングしない。
- ・調製時の摘葉枚数が一定しており、作業性に優れる。
- ・生育の揃いが良い。
- ・重量の割には草丈が伸びにくく、市場評価の高いL規格の品質を確保しやすい。

イ 短所

- ・根こぶ病抵抗性がない。
- ・葉色は部会の「CR うらら」と同程度で、濃緑とは言えない。
- ・生育日数は「CR うらら」よりも1~2日程度長くなる。
- ・「CR うらら」ほどに「尻張り」及び「くびれ」が強くないため、同品種に馴れた生産者にとっては形質的に物足りない可能性がある。

(2) STT-115



ア 長所

- ・葉は平滑で、ほとんどカップリングしない。
- ・調製時の摘葉枚数が一定しており、作業性に優れる。
- ・生育の揃いが良い。
- ・重量の割には草丈が伸びにくく、市場評価の高いL規格の品質を確保しやすい。

イ 短所

- ・根こぶ病抵抗性がない。
- ・葉色は部会の「CR うらら」と同程度で、濃緑とは言えない。
- ・生育日数は「CR うらら」よりも1~2日程度長くなる。
- ・「CR うらら」ほどに「尻張り」及び「くびれ」が強くないため、同品種に馴れた生産者にとっては形質的に物足りない可能性がある。
- ・作期2において、健全発芽率が7割程度に留まった。